

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 三島スピリット（自主自律の精神）の深化を図り、将来を担う人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。
- 1 高い志を掲げ、その実現に向けて真摯に努力する生徒を育成する。
 - 2 自他を尊重し、三島高生として自覚と責任ある行動をとることができる生徒を育成する。
 - 3 国際感覚に富む社会人として自立し、社会や地域の一員として積極的に貢献しようとする人材を育成する。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く確かな学力の育成

- (1) 教員の教科指導力と生徒の学習力を向上させることにより、学力の向上を図る。
 - ア 授業アンケートやICTを活用した授業改善に積極的に取り組み、教員の教科指導力を向上させる。
 - イ 平日休日の自宅課題管理や講習・補習の充実を通して生徒の学習意欲を高め、自学自習力を育成する。
 ※ 授業アンケートによる生徒の授業満足度を、平成28年度には90%以上とする（平成25年度79%）。
 ※ ICTを活用した授業を実施した教員数を、平成28年度には全教員の7割程度とする（平成25年度51%）。
- (2) 生徒が第1希望の進路を実現するための組織的計画的な進路指導体制を確立する。
 - ア 進路指導の3年間一貫取り組みを実施する中で、生徒の希望適性に応じた進路探索選択実現を推進する。
 - イ 刻々と変化する大学入試情報を的確に把握して進路指導機能に取り込む。
 ※ センター試験受験者数（国公立型）を、平成28年度には65%以上とする（平成25年度46%）

2 規律・規範の確立と豊かな人間性の育成

- (1) 生徒自らが規範意識やモラルを高める取り組みを組織的に推進する。
 - ア 自らを律し、他者を思いやり、公共のマナーやルールを守るなど、規範意識を醸成する取り組みを実施する。
 - イ 自己管理能力を高める取り組みを推進する。特に時間管理を徹底させ、勉強時間と部活動時間のメリハリをつけさせる。
 ※ 1日平均遅刻者数を、平成28年度には10名以下とする（平成25年度30.5名）。
- (2) 学校行事や部活動を通して、豊かな人間性を育成する。
 - ア 生徒会活動、学校行事、部活動などを活発化させると共に、生徒の自主性自律性を育む取り組みを推進する。
- (3) 人権教育、国際理解教育を充実し、国際的な視野を育む。
 - ア オーストラリア語学研修を充実させ、多様な方法によりコミュニケーション手段としての英語力を向上させる。
 - イ 国際交流の機会を増やし、互いの違いを認め合い、共に生きていく多文化共生の精神を涵養し、人権意識の向上を図る。
 - ウ 3年間を見通した人権教育推進計画の内容を精査し充実を図る。

3 社会（生徒・保護者・地域）に信頼される安全で安心な学校づくり

- (1) 防災を含む危機管理能力を向上させる。
 - ア リスクマネジメントとクライシスマネジメントの管理体制を強化する。
 - イ 訓練と意識改革を通して生徒と教員の実践力を向上させる。
- (2) 人権と心の教育を推進する。
 - ア 教育相談室の機能を充実し、スピード感をもって適時・適切な指導ができる体制を確立する。
 ※ 学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」の肯定的回答を、平成28年度には70%以上とする（平成25年度52%）。

4 機能的効率的な学校運営体制の確立

- (1) 学校経営計画を的確に実行できる機能を構築する。
 - ア 教育基幹の構築→教育制度の適切かつ合目的な設定
 - イ 経営計画の策定と目標実現追求→実現実証可能な目標設定、実現過程のフォロー
 - ウ 組織運営の改善→機能を果たせるミニマム組織、横断的総合的課題への適切な対処、業務の再構築（スクラップ&ビルド）
 - エ 情報活用力の向上→使いやすいシステム構築、統一的管理、個人情報徹底した管理
 - オ 連携協調の実現→学校発信力と社会とのネットワーク強化
 - カ 危機管理能力の向上→管理体制の整備、実践力向上のための意識改革・訓練の実施
 - キ 事務管理の適確な実施→効率化と金銭管理の徹底、職員と教員の連携

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
【学校生活】 1 生徒・保護者とも学校生活には満足している。友人関係も適切に構築できているようだ 2 反面、困っていることへの相談・気軽な相談を教員にできることに対する肯定評価は低いので改善されるべき 【学習・進路】 1 部活動と学習の調和が不十分である。否定評価が生徒49%保護者38%になっている。部活動は学校の魅力になっているが改善が必要 2 家庭学習時間が少ない。進学校における目は平日2時間以上であるが、53%が達していない。宿題管理など家庭学習促進のための恒常的施策が必要	【第1回 平成26年7月5日実施】 1 学校経営データは教職員だけでなく保護者にも開示すべし 2 データの活用による学校経営の改善を図ることが重要である 3 遅刻指導など生活規範指導をしっかりと実施すべきである 【第2回 平成26年12月13日実施】 1 授業改善のための授業観察手法の改善は良い 2 地域からの信頼を得られる学校、リーダー育成に重点を置いた学校になるべき 3 アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー等を明確にして伝えるべし 4 学校行事の実施目的・教育要素を再整理が必要。体育祭は楽しむだけでは不可 【第2回 平成27年2月6日実施】 1 ICT活用は拡大しているようだが、学力向上に結びついているのか 2 生徒が気軽に相談できるシステムを考えるべきである 3 教員のアンケート回収率を向上させるべし

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を切り拓く確かな学力の育成	(1) 教科指導力と学習力の向上	ア・授業アンケート、ICT活用、教員間の授業参観を踏まえた授業改善の推進 ・三島スタンダードの充実改善 イ・平日休日課題管理による家庭学習強化 ・予習－授業－復習のサイクルの確立による自学自習を習慣化 ・学力に応じた学習支援（補習・講習）を推進	ア・学校教育自己診断の「先生は授業改善をしている」の肯定的回答を70%以上（平成25年度44.5%） ・ICTを活用した授業を実施した教員数を全教員の6割程度にする（平成25年度30%） イ・学校教育自己診断の「平日の平均家庭学習時間1時間未満」を20%以下（平成25年度32%）	【取組み実績】 ア・春季・秋季授業公開の実施 ・教科代表者による研究授業の実施 ・管理職による授業観察改善（教員による授業構成票・管理職による点数制観察シート） ・平成26年度版三島スタンダード作成 イ・学年団による家庭学習管理の強化 ・指名補習と進学講習の実施 【評価】 ア 授業改善 平成26年度55.1%（△） ICT活用 平成26年度50.0%（△） 【評価】 イ 平成26年度23.0%（△）
	(2) 組織的機能的な進路指導の確立	・進路指導の3年一貫取り組みの強化 ・保護者、生徒の進路意識啓蒙と進路情報の積極開示 ・AO推薦一般受験生徒への個別指導を徹底	ア・学校教育自己診断の「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の当てはまるを50%以上（平成25年度33%） イ・学校教育自己診断の「自分の目標を定め、努力している」生徒の割合75%以上（平成25年度70%）	【取組み実績】 ・進路行事を学年別対象別にきめ細かく実施、進路意識醸成をおこなった 特にセンター試験対応については事前事後指導を強化 なお、受験者・5教科受験者は過去最高 ・AO推薦受験は抑制基調維持し面接論文指導徹底 ・3年間一貫指導に関してはH27年度に策定 【評価】 ア 平成26年度34.5%（△） イ 平成26年度71.2%（△）
2 規律・規範の確立と豊かな人間性の育成	(1) 規範意識の醸成	・基本的生活習慣の定着－挨拶の励行、自転車通学マナー向上、清掃の徹底など、生徒会が中心となって実践 ・遅刻ゼロ週間を設定し、年間で1日平均遅刻者数を25名以下	・1日平均遅刻者数25名以下（平成25年度30.5名）	【取組み実績】 平成26年度は大きな取組みを実施することができなかった 平成27年度は生徒指導部を中心に再構築する 【評価】 4月～12月1日平均遅刻者数23.6名（遅刻総数4451 対象日数189日）（○）
	(2) 部活動や学校行事を通じて豊かな人間性を育成	ア・部活の一層の振興 部活に対する基本的考え方と振興理念の共有 現在の課題と方向性の整理 イ・芸術に触れあう機会を提供	ア・クラブ加入率90%以上 イ・学校教育自己診断における「勉強と部活動の両立ができた」の肯定的回答55%以上（平成25年度48%）	【取組み実績】 ア・「部活に対する基本的考え方と基本理念」を策定 首席分掌長に説明 平成27年度は学校全体で共有を図ると同時に振興・安心安全・学習との調和を視点に検討を推進する イ・例年どおり芸術祭（音楽会・美術展・書道展）実施 【評価】 ア 平成26年度90.9%（○） イ 平成26年度48.7%（△）
	(3) 人権教育、国際理解教育の充実 ア コミュニケーション手段としての英語力の向上 イ 国際交流の機会の増加、多文化共生の精神の涵養 ウ 3年間を見通した人権教育推進計画の充実	ア・英語によるプレゼンテーション等の機会を設定 イ・高槻市や大学等と連携し、国際交流の機会を設け、異文化理解を推進 ウ・人権講演会、人権HR計画の内容を充実 ・高槻支援学校等との交流を通して人権意識を涵養	イ・学校教育自己診断における「環境、国際理解、福祉ボランティアなどについて学習する機会がある」の肯定的回答60%以上（平成25年度53%） ウ・学校教育自己診断における「命の大切さについて学習する機」の肯定的回答65%以上	ア・イ【取組み実績】 ・オーストラリア夏季語学研修（希望者）実施 ・ニュージーランド高校生との交流会実施 【評価】 ウ 【取組み実績】 ・人権講演会実施チャンヘン氏「あきらめない心」 ・本校文化祭等で相互訪問、高槻ふれあい冬祭り等のイベントで交流 【評価】 イ平成26年度53.9%（△） ウ平成26年度78.9%（○）
3 社会に信頼される安全で安心な学校づくり	(1) 危機管理能力の向上	(1) 危機管理能力の向上 ア 体制整備、訓練と意識改革、標準化 イ 生徒が自らの命を守り抜くために必要な「主体的に行動する態度」を育成するため専門家による講演会等の実施	ア 学校教育自己診断における「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」のあてはまるとする回答を40%以上（平成25年度28%） イ 学校教育自己診断における「事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている」の肯定的回答を30%以上とする（平成25年度16%）	【取組み実績】 ・緊急マニュアル、救急マニュアルの策定 ・AED使用方法習得のための救急講習会実施 ・全校避難訓練の実施 【評価】 ア 平成26年度22.9%（△） イ 平成26年度17.9%（△）

府立三島高等学校

	(2) 人権と心の教育の推進	(2) 教育相談の充実、生徒に対する支援体制の確立 ア 生徒相談の充実 特に体罰・いじめの早期発見への取り組み注力 イ 不適応生徒に対する働きかけの強化、迅速化、適切化	ア 学校教育自己診断における「担任以外に相談できる先生がいる」の肯定的回答 60%以上(平成 25 年度 52%)。 ア 学校教育自己診断における「先生はいじめなどに真剣に対応してくれる」のあてはまるとする回答 30%以上(平成 25 年度 20%)。	【取組み実績】 ・健康面で配慮を要する生徒一覧表、適応面で配慮を要する生徒一覧表を使った情報共有と対応 ・教育相談委員会による対応 ・カウンセラーとの意見情報交換会 【評価】 ア 平成 26 年度 50.8% (△) イ 平成 26 年度 19.1% (△)
	(1) 学校改革を推進するための学校基盤の強化	ア・将来の教育・学校環境を踏まえた教育理念を明確にして学校経営に対する共通認識を醸成する イ・生徒の進路実現に資する新教育課程を平成 28 年度より導入するための検討を推進する ウ・学校風土に適合する組織体系の構築		【取組み実績】 ア・「これからの高校教育について」「学校経営について」を校長レクチャー 定期的に学校経営状況を校長が開示し、校内において共通認識を醸成すると共に学校経営の基礎とした イ・委員会により検討を推進し、成案を得た ウ・組織 学校経営を推進するために組織改革を実施 機能・ミッションを明確化 分掌 室組織・マネジメント会議を廃止、分掌を再編成すると共に研修育成・図書部を新設委員会 横断的総合的課題に対処するために既存組織の統廃合簡素化、新たに「基本問題検討委員会」「学力進路検討委員会」「危機管理委員会」を設置 これらの委員会は管理職・首席主導で推進 惹起した危機管理事態への対応のために「緊急対応ミッション」を校長直属で新設
4 機能的効率的な学校運営体制の確立	イ 学校経営計画を着実に推進するための運営改革	イ・学校全体や組織個人が目標を達成できる業務推進方法の導入	ア・ 学校教育自己診断における「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の肯定的回答を 50%以上(平成 25 年度 40%)	イ・ 目標達成のための業務運営 平成 26 年度→ 4 月 分掌は年度重点目標、主な具体的業務(担当も含め)、行事・業務計画を作成 9 月 中間レビューと下期取組みを提出 各自の自己目標への反映連動性は不十分 今後業務実施の計画性具体性実現性を向上する 平成 27 年度→ 8/20 校長「平成 27 年度学校経営について～新たな発展を目指して～」を職員会議提示 ～09 月下旬 校長 各グループに対する個別説明～12 月上旬 各分掌検討→報告→調整 1/8 平成 27 年度学校経営計画(案) 提示 【評価】 ア 平成 26 年度 17.9% (△)
	ウ 情報発信力・活用力の向上	ウ・メールや掲示板などを有効活用するための校内イントラネットの改善 ・地域保護者に対する情報発信の充実		ウ メールや掲示板などを有効活用するための先進事例等の情報収集に努める(8/27 東百舌鳥高等学校を視察) 校内イントラネットの改善現在の実態についてヒアリングをおこなった。新年度は問題点整理と課題確認・今後の進め方を検討
	エ 教員の資質向上	エ・初任者研修を全体のみならず地区・学校で実施	エ・学校教育自己診断における「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」のあてはまるとする回答を 20%以上とする(平成 25 年度 7%)	エ・ 初任者研修を全体地区・学校で実施 高槻島本地区合同研修(4 回) 本校研修 1 学期 1 導入研修 2 校長講話(高校教育を取り巻く環境、学校経営) 3 考査監督の A B C、HOW TO 保護者懇談 4 授業見学(国語・体育・情報・社会) 2 学期 1 授業見学(数学・理科・英語・芸術) 2 I C T 活用について 1 0 / 1 (1) 初任者体育実技における I C T 活用(2) 指導教諭 I C T 活用の長所と短所 3 校務説明 4 進路指導演習(入試科目調べと本校のカリキュラムの関係) 5 入試業務の流れと基本 【評価】 エ 平成 26 年度 10.7% (△)